

鶏肉情勢

令和4年1月12日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目	内容
供給	<p>1. 国内</p> <p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和3年12月末実施)によると11月の推計実績は処理羽数62,957千羽(前年比103.7%)・処理重量192.8千ト(同105.2%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.7%上方修正し、処理重量も3.0%上方修正となった。特に当初の計画を上回る生育の良さにより、処理重量は大幅に増加した。地区別で見ても全国的に処理重量は前年を上回っており、気候が安定していた事や、旺盛な生産意欲が反映したのではないかと見られる。</p> <p>(2) 生産見込みについては12月は各産地増体が良かった事もあり、体感的には例年以上に供給は多かった。1月についても処理羽数が前年同月比で104.7%、処理重量で103.9%と前年を上回る見通しとなっている。11月の入雛が多かった事も反映しているのではないかと見られる。鳥インフルエンザの発生次第では影響も懸念されるが順調な生産が暫く続くだろう。全国的な人手不足は解消する見込みは立っておらず、各産地は加工品や副産品(小肉・ハラミ・脂等)の製造調整は続いており、今後も調整が見込まれる。</p>
	<p>2. 輸入</p> <p>(1) 財務省12月24日公表の貿易統計によると令和3年11月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月の6,578ト、増の5万7,790トで前年同月の実績を27.5%上回った。前月差ではブラジルが+5,463ト、タイが+842トとなっており、生産・コスト高はあるものの、国内在庫の減や底堅い加工向け需要等からの増加となったのではないかと見られる。12月以降の見通しについてはコロナウイルスの影響で稼働に大きな影響が出ている。飼料価格の高騰、為替動向も加わりコストは増える見込み。国産の凍結玉消化との兼ね合いがあるものの、年明けに一部業者で補充買いの動きもあるため、輸入量は若干増加するのではないかと見られる。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は4万3,754トで前年同月比102.4%と前年を上回った。前月差ではタイが+4,414ト、中国が+4,311トとなった。タイについては前月差では増加しているものの、前年同月比では▲12.4%となっていることから、コロナウイルスによる工場稼働が落ちている事による影響ではないかと見られる。中国についてはタイを補填する形で前月差・前年同月差共に上回っている。クリスマス商材については昨年程の夕食控えは無かったことに加え、まだまだ消費が内食に向いている事もあり、順調であったようだ。しかし、輸入品の不足等から輸入原料を使用した商品を国産原料へ変更した業者も一部あったと聞かれるため、国産鶏肉の原料使用も増加したのではないかと見られる。</p>
需要	<p>1. 家計消費</p> <p>(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和3年11月の生鮮肉消費(購入)は数量4,191g(前年比96.9%)、金額6,264円(同96.3%)と前年を下回った。鶏肉は数量1,536g(同102.5%)・金額1,429円(同100.3%)と9月報告から3か月連続で前年を上回る結果となった。一方、加工品については加工肉全般で金額1,573円(同95.9%)と9か月連続で前年を下回った。調理食品が金額11,500円(同104.9%)、外食が12,401円(同97.9%)となっており、夕食控えや調理する手間を省きたい共働き世帯等の調理済み食品の利用が増加している事が数値に反映しているのではないかと見られる。鍋に欠かせない葉物野菜等の価格も安定してきており、気温の低下に伴い鍋需要も高まってくることから鶏肉消費が増加することが見込まれる。</p>
	<p>2. 量販・卸</p> <p>(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和3年11月の食品売上高は全店ベースで前年比99.7%と前年を下回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで前年比98.3%、既存店ベースでも同96.8%と前年を下回った。また、畜産部門の売上高は約1,131億円で全店ベース(同98.3%)、既存店ベース(同96.8%)とも前年を下回った。「緊急事態宣言解除による内食需要の落ち着きに加え、国内産、輸入品共に価格の高騰が続いており、販促も打ちにくく、伸び悩んだ。国産牛、輸入牛ともに価格上昇が続き動きが悪く、なかでも和牛など高単価商品が不調となった。豚肉や鶏肉は鍋需要を中心に回復傾向がみられた。ハム・ソーセージなど加工肉は前年好調の反動で不振とする店舗が多い。」と報告された。総菜部門の売上高は全店ベース(同104.2%)、既存店ベース(同102.3%)ともに前年を上回り、高水準を維持している。「緊急事態宣言解除による通勤の再開などで夕方以降の人流が増加し、夜間売上が回復した店舗がみられた。寿司類は引き続き好調、油脂類の値上げにより家庭での調理を避けるためか、揚げ物類が好調とのコメントが多い。近場への行楽や、小規模イベントの再開により、弁当類も好調に推移。引き続き、家飲み用の、焼鳥やつまみ類も堅調に推移している。正月のおせち予約注文が好調とのコメントが多い。」と報告があった。野菜価格は安定しているため、鶏肉を使用した料理も増えるのではないかと期待される。</p>
	<p>3. 業務・加工筋</p> <p>(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる令和3年11月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比102.0%の4,676トとなった。うち国内物は同98.0%の3,707トと前年を下回り、輸入物は同120.9%の968トと前年を上回った。前月同様に輸入原料を使用した加工品の製造量は増加しており、原料価格の高騰を見込む製造だと推測される。</p>
在庫	<p>1. 令和3年(2021年11月)</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構の推計期末在庫では国産33.6千ト(前年比127.0%・前月差▲1.1千ト)、輸入品114.7千ト(同87.4%・同+6.5千ト)と合計で148.3千ト(同94.0%・同+5.3千ト)となった。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(令和3年12月23日公表)では、11月の出回り量は国産147.6千ト(前年比104.8%・前月差+1.7千ト)、輸入品48.9千ト(同101.6%・同▲1.7千ト)と合計で196.6千ト(同104.0%・同±0.0千ト)となった。11月以降の国産在庫については消費量は増加傾向にあるものの、需要を上回る生産量により増加するのではないかと見られる。一方、輸入在庫についてはタイ現地でのコロナウイルスによる工場稼働への影響が懸念されるが、国内の輸入在庫の減少等によりブラジルからの輸入量は増加する事が見込まれるため、輸入品在庫は一時的に増加する可能性がある。</p>
相場	<p>1. 令和3年12月動向</p> <p>(1) 令和3年12月の月平均相場は、モモ肉641円/kg(前月差+22円)・ムネ肉340円/kg(同+7円)正肉合計で981円/2kgと前月差で29円上回り、前年差では17円下回った。モモ肉は月初625円、月末は659円までの34円の上がり幅となったものの、昨年は月初668円、月末710円の42円の上がり幅であったことから昨年ほどの勢いはなく、需要に対して生産量が多かったため相場の上がり幅は昨年を下回ったと考えられる。ムネ肉相場は依然として輸入鶏肉の影響もあり、高水準を維持している。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) 気象庁発表の「向こう1か月の天候の見通し(1月)」によると、1月の気温は全国的に平年並みの予測となっている。家計消費では鶏肉の消費量は増加傾向にあり、野菜価格が安定していることから鍋物需要へ期待出来るものの、直近の生産量は増体が良いことから需要以上の供給量になるのではないかと見られる。外食・居酒屋等では今後のコロナウイルスによるまん延防止法等がどの程度影響するか見通す事は難しいが、直ぐにコロナ禍以前に戻る事は考えにくい。加工筋向けの引き合いは依然として強く、安価な輸入鶏肉を集荷する事が難しい状況が続けば、国産凍結品の消化は進むのではないかと見られる。以上から、モモ肉相場は一定の需要は期待出来るものの、供給量が増加する見通しのため月平均650円と予測する。ムネ肉相場は加工原料としての引き合いが依然として強いものの、12月に凍結した凍結品消化もあることから、若干下げの月平均330円と予測する。</p> <p>(2) 前述の相場予測は鳥インフルエンザの影響が無い事を前提に行っている。今後、肉用鶏・種鶏農場で鳥インフルエンザが発生した場合は規模にもよるが、相場への影響も懸念される。また、輸入鶏肉については生産コスト・為替・新型コロナの影響により仕入価格は上昇すると考えられるが、国産へ需要がシフトするかは不透明だ。今後の動向に注視したい。</p>

実績								
生産状況								
単位:千羽、千トン、%								
	R3年11月 推計実績		R3年12月 計画		R4年1月 計画		R4年2月 計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	62,011	103.5%	69,043	99.4%	66,204	100.2%	59,942	101.4%
処理羽数	62,957	103.7%	66,767	100.5%	60,929	104.7%	58,262	101.5%
処理重量	192.8	105.2%	200.7	99.2%	182.3	103.9%	174.7	100.4%

※参考資料:(株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向											
単位:千トン、%											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年7月	44.7	51.6	86.8	43.9	38.4	114.3	88.6	90.0	98.5	50.5	49.5
R3年8月	46.9	40.3	116.4	44.1	33.2	132.6	91.0	73.6	123.7	51.6	48.4
R3年9月	45.2	41.5	109.0	31.8	35.2	90.3	77.0	76.7	100.4	58.7	41.3
R3年10月	51.2	47.9	106.9	35.2	39.2	89.8	86.4	87.1	99.2	59.3	40.7
R3年11月	57.8	45.3	127.5	43.8	42.7	102.4	101.5	88.0	115.3	56.9	43.1
R3年累計	535.1	492.3	108.7	432.8	425.3	101.8	968.0	917.6	105.5	55.3	44.7

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向							相場(年別・暦年)			
単位:グラム、円、%							単位:円			
履歴	数量			金額						
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	モモ肉	ムネ肉	計	
R3年7月	1,440	1,530	94.1	1,265	1,364	92.7	626	294	920	
R3年8月	1,449	1,473	98.4	1,341	1,348	99.5	639	336	975	
R3年9月	1,546	1,401	110.3	1,383	1,327	104.2	621	255	876	
R3年10月	1,559	1,538	101.4	1,424	1,424	100.0	626	315	941	
R3年11月	1,536	1,498	102.5	1,429	1,425	100.3	595	282	877	
R3年平均	1,513	1,540	98.2	1,383	1,411	98.0	R元年	243	828	
							R2年	269	883	
							R3年	313	954	

※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

在庫状況(推定)									
履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年7月	34.5	29.5	117.0	113.7	140.6	80.9	148.3	170.1	87.1
R3年8月	34.9	28.0	124.6	111.4	139.2	80.1	146.3	167.1	87.5
R3年9月	33.8	27.8	121.6	107.6	138.4	77.7	141.4	166.2	85.0
R3年10月	34.7	26.8	129.3	108.2	134.1	80.7	142.9	160.9	88.8
R3年11月	33.6	26.4	127.0	114.7	131.3	87.4	148.3	157.7	94.0

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)									
単位:円、%									
品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年7月	600	598	100.3	301	261	115.3	901	859	104.9
R3年8月	583	596	97.8	308	272	113.2	891	868	102.6
R3年9月	580	609	95.2	316	281	112.5	896	890	100.7
R3年10月	603	632	95.4	328	292	112.3	931	924	100.8
R3年11月	619	654	94.6	333	302	110.3	952	956	99.6
R3年12月	641	687	93.3	340	311	109.3	981	998	98.3
R4年1月	(650)	711	91.4	(330)	314	105.1	(980)	1,025	95.6
R4年2月	(640)	701	91.3	(320)	305	104.9	(960)	1,006	95.4
R3年平均	641	614	104.4	313	269	116.4	954	883	108.0

※()は見通し
※()は見通し
※1-12月平均